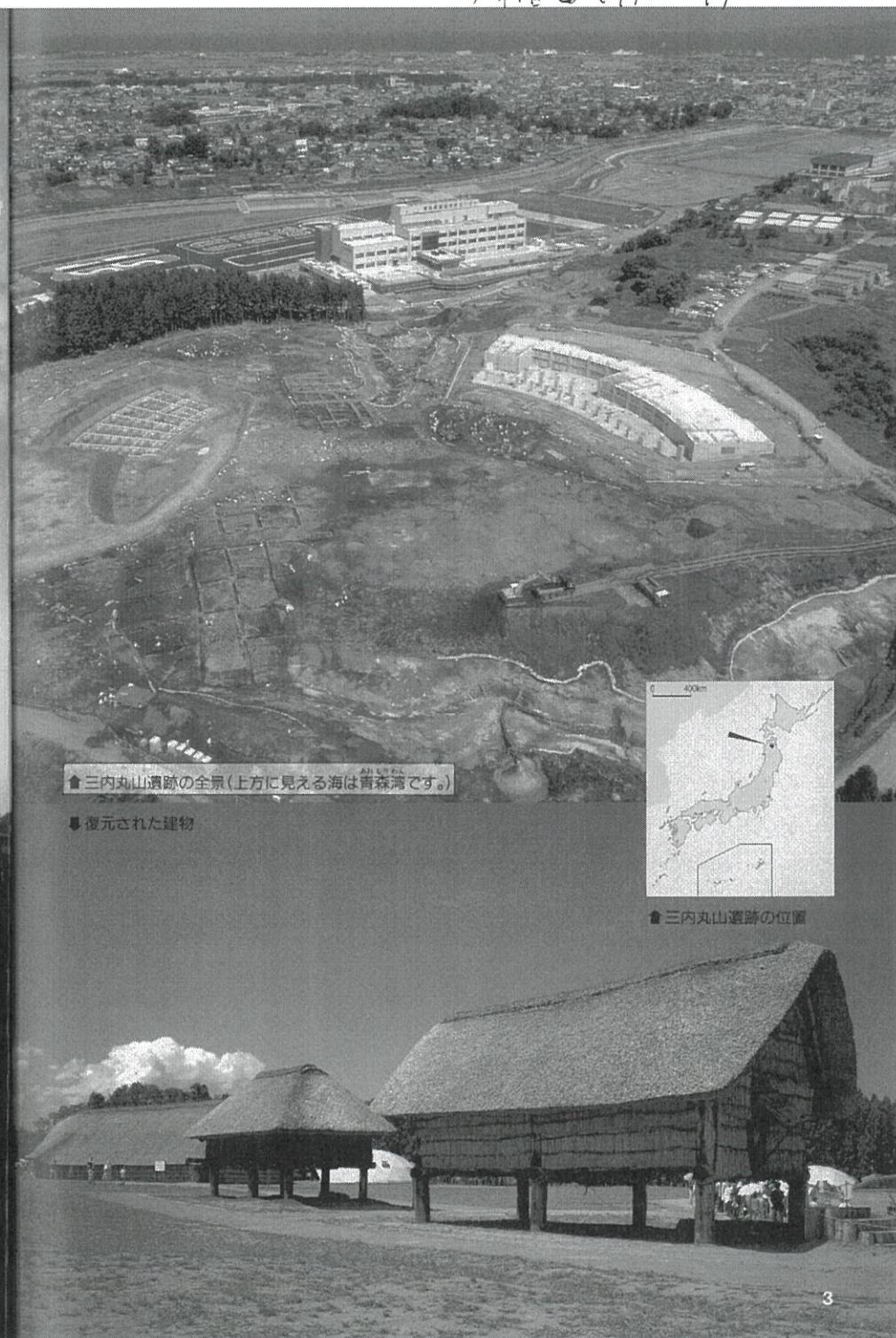


1 日本の歴史

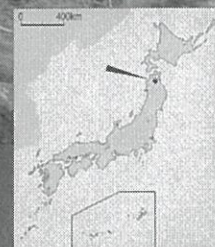
大昔の遺跡をたずねて

さん ない まる やま あお もり
三内丸山遺跡(青森県)に日が上りはじめました。遠い昔、この地にくらしていた人々も、きっとこのように静かな朝をむかえていたことでしょう。そのころから現在まで、約5000年ほどの時がたちました。その間、人々は、どのような暮らしをし、どんな歴史をつくってきたのでしょうか。



三内丸山遺跡の全景(上方に見える海は青森湾です。)

■ 復元された建物



三内丸山遺跡の位置



▲たくさんのお見学者が来ています。

▲発掘されたいろいろな土偶



▲6本の大きな柱を立てたあなのあと



▲発掘された土器
(上)とヒスイ(右)

三内丸山遺跡の発掘調査責任者、岡田康博さんの話

三内丸山遺跡は、今から約5500年から4000年前までの、約1500年もの間続いた大きな集落のあとで、ほぼ完全な状態で発見されました。この遺跡の地下からは、土器や石器など、ダンボール箱で約4万個をこえる大量の遺物が出土し、そのころの人々の生活の様子がこれまでよりもっとくわしく分かってきました。

太さ約1mのクリの木の柱とそれを立てた大きなあななどの発見は、当時の建設技術が考えられていた以上に優れたものであること、出土したクリの花粉の分析からは、クリの栽培が行われていた可能性があること、加工したヒスイの玉の調査からは、遠い地域とも交流があったことなどが分かりました。

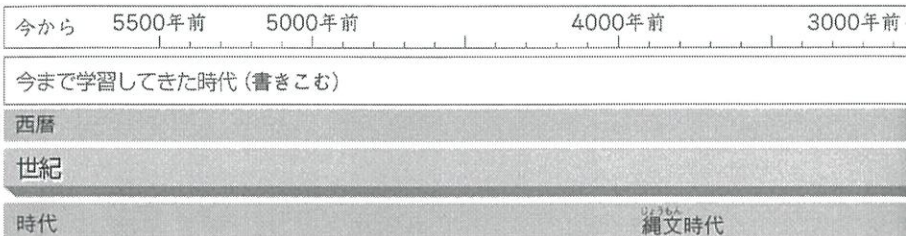
わたしたちの祖先は、厳しい自然の中で、さまざまに知恵を出し合い、くふうを重ねてくらしをきたのです。

地域に残っている昔の人々のくらしの様子が分かるものを調べてみましょう。今まで気づかなかったことや新しい発見が、きっとあることでしょう。

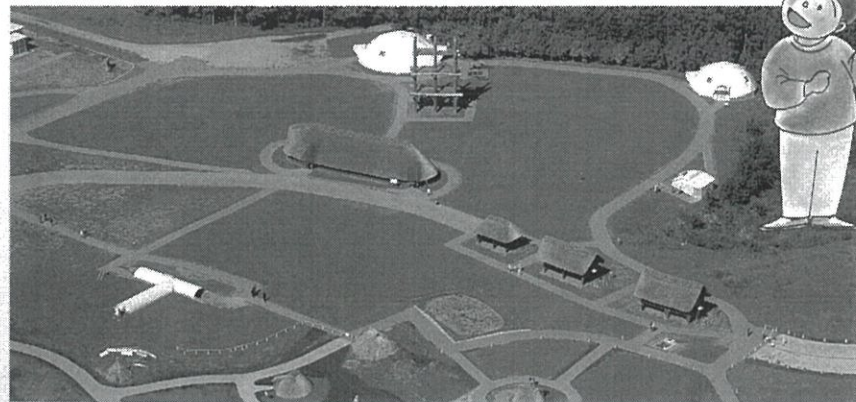
▲地面の下の遺物と発掘調査責任者の岡田さん

今まで学習してきた時代を年表であらわしてみよう 今まで学習してきた時代は、年表であらわすとどのあたりになるでしょうか。下の年表に書き入れてみましょう。またそのころは、「西暦」や「世紀」であらわすとどうなるでしょうか。

板付遺跡(弥生時代)… 今から2300年ほど前
吉野ヶ里遺跡(弥生時代)… 今から2000年～1800年ほど前
大仙古墳(古墳時代)… 今から1600年ほど前



のりおさんは、米づくりが始まる前の時代について調べてみました。

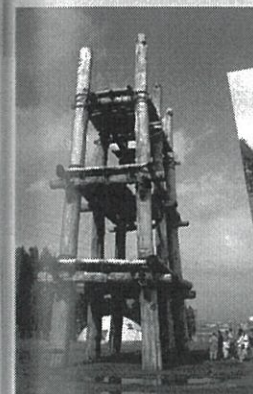
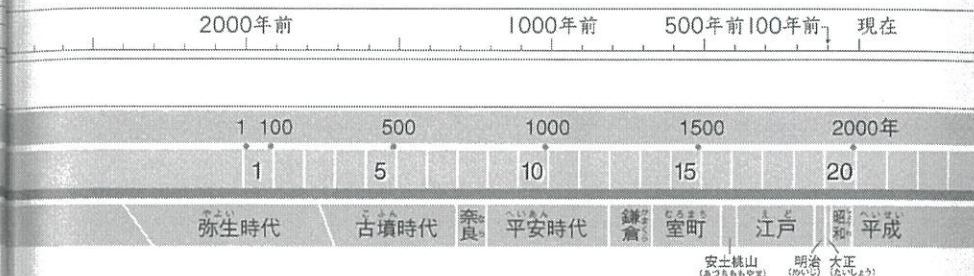


④三内丸山遺跡(青森県) 三内丸山遺跡は、今から5500年も前の遺跡で、縄文時代とよばれる時代のものです。縄文時代の人々は、野山の植物や動物、海や川の魚などをもって生活し、むらどうしが武器を使って争うことはなかったと考えられています。このような縄文時代は、1万年もの長い間続いたそうです。



【年表の見方】

- 年表では、できごとをあらわすのに「西暦」であらわしています。
- 「西暦」では、キリストが生まれたと考えられた年を西暦1年として数えています。
- 年表の100年ごとのめもりをひとまとめにして、「世紀」とよびます。西暦1年から100年までが1世紀、2001年から2100年までが21世紀です。
- 日本の歴史では、「奈良時代」「江戸時代」など、おもに国の政治がどの地で行われたかをもとに時代が区切られ、名前がつけられています。

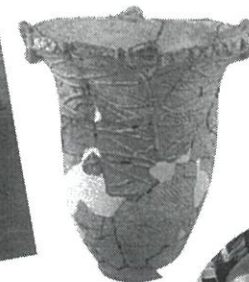


④復元された大きな建物

三内丸山遺跡で見つかった穴などから復元された建物です。柱の直径は1mもあります。何のための建物かは、はっきりわかっていませんが、お祭りのため、見張りのためなど、さまざまな考えがあるそうです。柱にはくりの木が使われていました。

植物	くり くるみ 山ぶどう
魚	きいちご 山ぐわ さるなし まぐろ かつお たい たら かれい にしん ぶり あじ いわし さめ
動物	しか いのしし きつね たぬき 野うさぎ むささび りす おおかみ かも きじ

④このころ食べていた食料



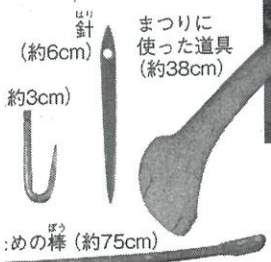
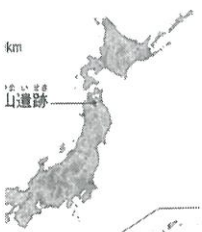
④縄文土器 このころ使われていた土器には、縄をおつけたようなあとがあることから、縄文土器とよべます。



④三内丸山遺跡では、土偶づくりなど、さまざまな体験学習ができています。

縄文のむらから古墳のくにへ

縄文のむらの様子についてみましょう。



主な道具 石や木や動物の骨・角などを
して、さまざまな道具として使用して
植物のつるでつくったポシェットのよ
い見つかっています。

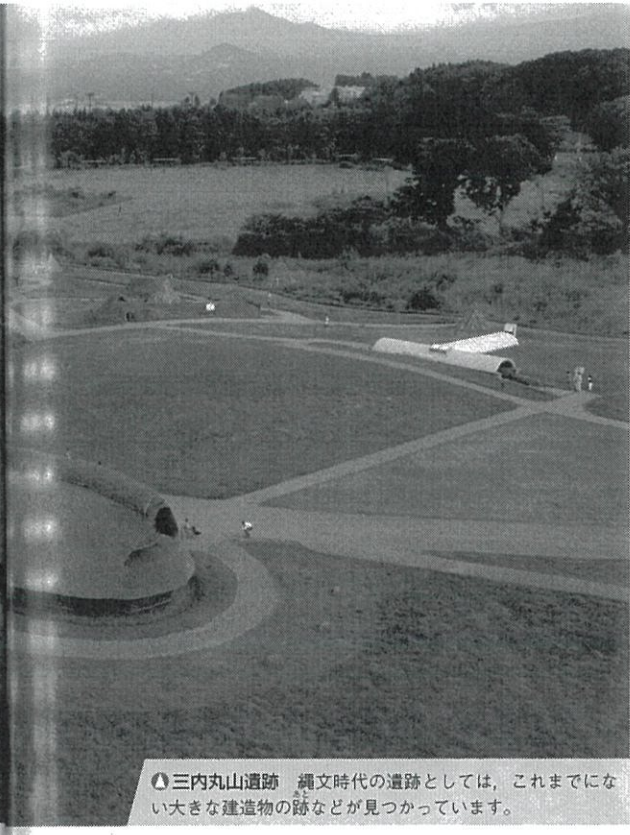
たて穴住居 地面を浅くほって床に
上草などで屋根をふいてつくります。
族4～5人が住んでいました。



さんないまるやまい せき
三内丸山遺跡と縄文のむら ここは青森県青森市にある三内丸山遺跡です。るりこさんたちは、今から約5500年前の人々がくらしていたこの遺跡を見学して、いろいろなことを発見しました。

このころの人々は、たて穴住居という家に家族で住んでいました。入り口はせまいけれど、中は意外に広かったです。

人々は、力を合わせて、野山の動物、木の実や山菜、海や川の魚や貝などを手に入れて、生活していました。



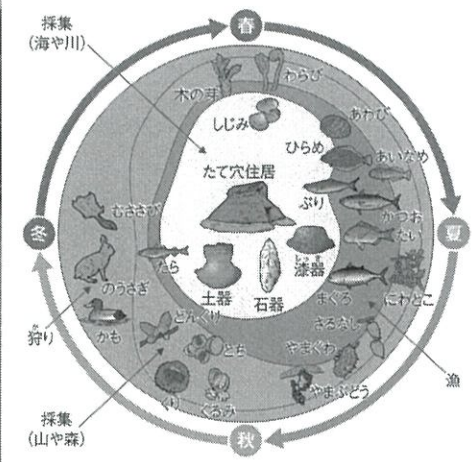
三内丸山遺跡 縄文時代の遺跡としては、これまでにない大きな建造物の跡などが見つかっています。

でも、何日も食べ物が手に入らないことが多かったようです。

生活に必要な道具は、骨や石や木を使って、自分たちでつくっていました。

食べ物をにたり焼いたりするには、ねん土を焼いてつくった縄文土器という器が使われました。

だから、このころを縄文時代というんだね。縄文時代は約1万年前から8000年ほど続きました。



三内丸山遺跡の人々の1年の生活



縄文土器 このころ使われていた土器は、表面に縄の文様がついていたので、縄文土器とよばれています。



三内丸山の人々の暮らしについては、12～13ページのイラストを見よう。

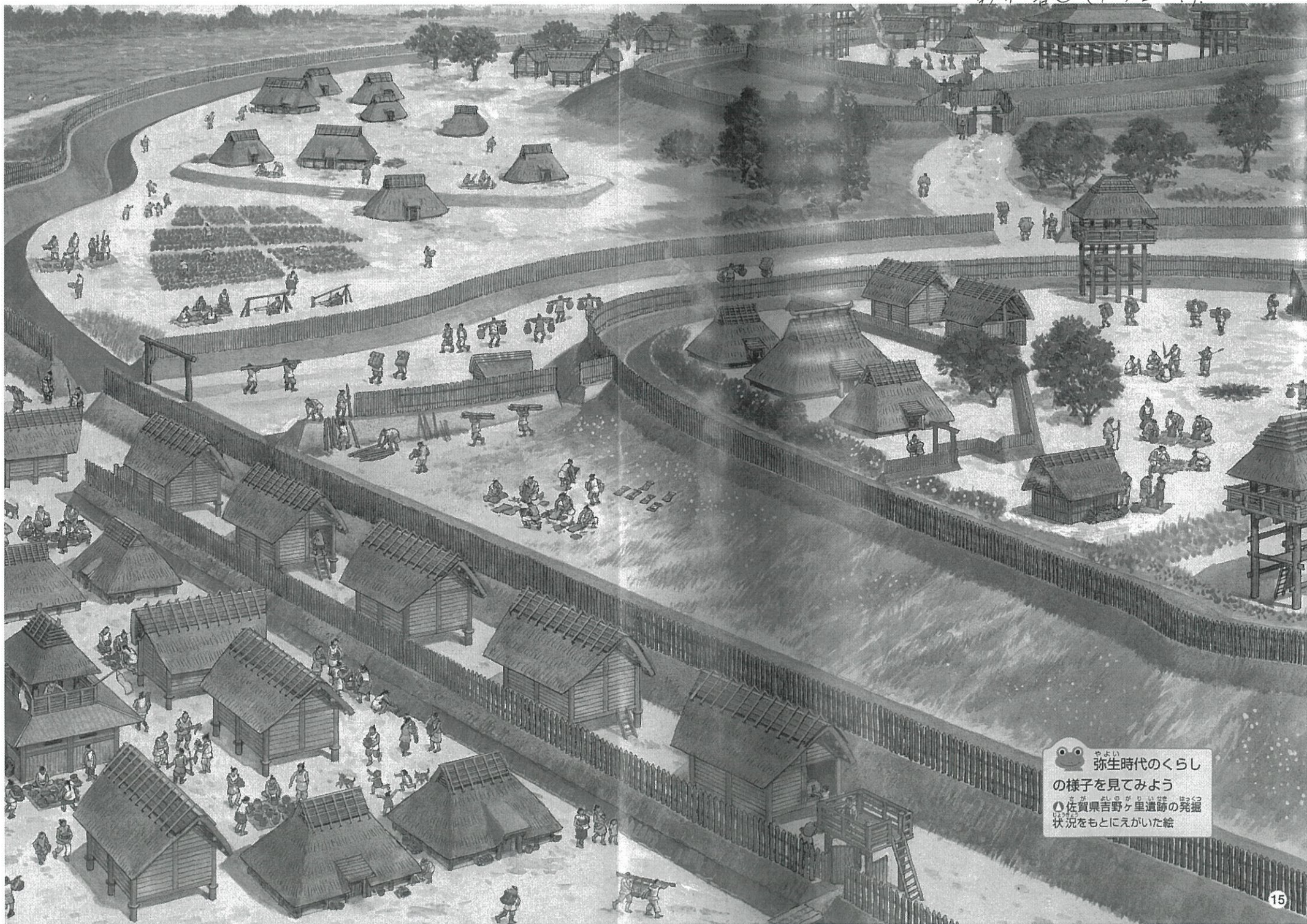
もっと縄文時代を知るために
～「貝塚」を見学してみよう～

縄文時代の人々が食料として食べた貝がらや動物の骨を捨てる場所は、決まっていたようです。そのため、むらがあった場所のそばの地層からは、貝がらや動物の骨、土器のかけらなどが発掘されます。こうした遺跡を「貝塚」とよびます。



静岡県浜松市の蛸塚貝塚





やよい
弥生時代のくらし
の様子を見てみよう
○佐賀県吉野ヶ里遺跡の発掘
状況をもとにえがいた絵